

かほく市高松の旧能登街道（南町通り）



鶴彬通信

はばたき

第7号

2012年2月25日

鶴彬を顕彰する会

もくじ

- ② 面 国家賠償法制定でかほく市議会が意見書採択
- ③④ 面 鶴彬の句に学ぶ（岩原 茂明）
- ⑤⑨ 面 盛岡の小学校で鶴彬の授業、児童の感想文
- ⑩⑪ 面 「何のためにいのちをささげる？」講義録
- ⑫⑭ 面 連載「新興川柳の軌跡」

高松の3つの鶴彬句碑を結んで

「歴史街道フェスタ」を提唱

昨年九月十一日の鶴彬を顕彰する会総会から新しい年度がスタートしました。幹事会（役員、幹事二十名）では毎月第三火曜日に定例会を開き、情報交換と、会員・機関誌購読拡大や鶴彬映画のDVD販売促進、活動計画を立ててきました。

今年度の活動の大きな柱として、「高松歴史街道フェスティバル」（仮称）の提案がありました。江戸時代、宿場町だった高松地区には道幅約十五呎の広い旧能登街道が南北に走り、真ん中には桜並木や用水が、そして両側には格子戸をはめ込んだ古民家が何軒も残る風情ある街並みが残っています。この通りにある歴史公園から鶴彬生家付近までの約五百呎間の近辺には三つの鶴彬句碑が点在し、かつては銀行や商店が立ち並ぶ賑わいの中心でした。この歴史と文化の遺産を生かし、若き鶴彬も走り回ったであろう由緒ある街道に、もう一度活気と賑わいを呼び戻すイベントを……と、幹事会で案が練られてきました。

毎年八月の第四日曜日に開かれる鶴彬忌川柳大会から九月の第二日曜の鶴彬碑前祭までの期間、土、日曜を中心に文化祭的なイベントを催し、街道沿いを万灯会で飾る——などを柱に、いろいろな団体、関係町内会に働きかけ、実行委員会を作って進めようという事になりました。

会員140人を超える

昨年の総会后、会員、機関誌購読の申し込みを受け付け、同時にカンパのお願いと鶴彬映画のDVD購入呼びかけを行ってきました。一月現在で会員は百四十人を超え、カンパをしてくださった方は六十人余、十三万円近くになり、当会財政の大きな支えになっています。

DVD販売は約五百本、まだ少しずつ全国から注文が来ています。機関誌「鶴彬通信はばたき」の発行は、6号が宣伝用も含めて六百部（5号四百部、4号三百部）でした。

「治安維持法犠牲者国家賠償法の制定を求める意見書」

市議会全会一致で採択

かほく市会議員 高橋 成典

昨年の十二月に開かれた、かほく市議会で、「治安維持法犠牲者 国家賠償要求同盟石川県本部」から提出された「治安維持法犠牲者への国家賠償法の制定を求める陳情書」が全会一致で採択されました。

内灘町、津幡町に続いて県内三番目

同陳情書は、県国賠同盟が、県内の各自治体に提出していたもので、かほく市議会での採択は石川県内では内灘町、そして一九九七年に津幡町で採択されて以来十四年ぶり三番目です。

反戦・平和川柳の鶴彬出身地

かほく市は、鶴彬の出身地です。「手と足をもいだ丸太にしてかえし」「胎内の動き知るころ骨がつき」「万歳とあげて行った手を大陸へおいて来た」など、数々の川柳を作り、反戦・平和を貫いた鶴彬は、三度治安警察（特高・特別高等警察）に検挙されています。

昭和十三年に、収監のまま赤痢で入院、同年九月十四日、二十九歳の若さで亡くなりました。

鶴彬の出身地での採択は全国を励ます

今回の陳情書を提出するにあたって、国賠同盟県本部の北口会長、金子副会長、納口事務局長の三氏と、私（高橋市議）が、事前に相談して、かほく市が鶴彬の出身地であることを生かして、治安維持法の犠牲者への国家賠償を求める陳情書を採択する意義は重要であり、県内外の運動に大きな励ましとなることを確認しました。

総務委員会で二議員が賛成討論

十二月十九日に開かれた市の総務常任委員会では、「治安維持法は反人道的で反民主主義だったことは間違いない。国際的に言っても戦争犯罪と人道に反する罪に時効はない、まさにその通りです。だから各先進国では、犠牲者に対して身分保障並びに一時金等を支払っているのも現実です。日本国が今までこれを放置していたということは、国会及び政府の責任は重大です。亡くなった人の人権保障も踏まえながらこれには賛同します。」（寺内照雄議員）

「今までほとんど目にもしなかつたようなものが、いきなりぼっくり出てきたような感じですが、やっぱりこれは早期に政府に対してしっかりと法律を定めてもらいたい。」（多々見邦次議員）、等々委員六人全員が賛成し、二十一日の本会議でも全員賛成で採択されました。

採択された意見書は全国でもっとも良い意見書を調査しまとめた文書となっています。

全員賛成で採択した意見書

「治安維持法犠牲者国家賠償法の制定に関する意見書」

一九二五年に制定された治安維持法により、戦前の軍国主義政治のもとで主権在民、民主主義、侵略戦争反対などを唱えたことを理由に、多くの人が弾圧され、犠牲となった。

治安維持法が廃止されるまでの二十年間に逮捕された人は数万人、送検された人は七万五千人余、拷問により虐殺された人や獄死した人は約二千人に上っており、石川県でも二百人以上の人が検挙されている。

わが国では、戦後、治安維持法が人道に反する悪法として廃止され、この法律によって処刑された人々は無罪とされたが、しかし、これまでの歴代政府は何ら補償措置をしていない。ドイツでは、「戦争犯罪人と人道に反する罪に時効はない」という国際法に基づき、今も戦犯を追及し、犠牲者に謝罪と賠償を行っており、イタリアでも国家賠償法を制定し、犠牲者に終身年金を支給している。

また、条約を批准していないアメリカやカナダでも、戦争中の日系人強制収容について謝罪と賠償が行われている。

治安維持法の制定から八十五年が経過し、生存する犠牲者はわずかとなっている。

この人々の存命中に一日も早く政府による謝罪と賠償を実現することは、人道上当然の急務であり、再び戦争と暗黒政治を許さないあかしとなるものである。

よって、国会及び政府におかれては、（仮称）治安維持法犠牲者国家賠償法を制定されるよう強く要望する。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

鶴彬の句に学ぶ(続)

金沢市在住 岩原茂明

1 枯芝よ！団結して春を待つ 鶴彬

昭和十一年の有名な句で「を」がつくかどうかもあるが、岡田一杜氏の鶴彬句集71頁の編纂に従ってみました。

私は「団結」ということばに着目します。現行憲法では第二十八条で団結権を勤労者の権利と規定し、労働基準法第三十六条などで労働者代表を認めています。しかし厚生労働省編の「労働基準法 上」を確かめました。が、帝国憲法下にはこのような規定は旧工場法にもみられません。

しかも昭和十年に大本教が治安維持法違反で弾圧を受けていました。

最近、旧高松町を含むかほく市は、全国に先駆けて「治安維持法犠牲者に国家賠償を求める意見書」を市議会全会一致で採択しましたが、この当時の「団結」は命がけでしょう。今、私たちは団結で命までとられることはないのですが、それだけに社会の前進を心がけなければならない、と思います。

原発ノー 団結して春迎え 茂明

2 奴隷ではない女達のヨイトマケ 鶴彬

この句については、前回も取り上げまし

た。昭和十一年、鶴彬が高松を離れて後の作ですが、彼自身の心には少年時代、ふたつの街道と御門跡往来付近に集落はあったが、あととはただ砂山だけの高松の地を開拓してぶどう畑に変えた先人たちへの敬意があったのではないのでしょうか。ちなみにヨイトマケとは土普請のことだと思えます。

(先見者は適地だという地元の人のことばに半信半疑ながら決断したことでしょう)

少し話は飛びますが、私はハケンに頼る今の経営者の姿勢はおかしいと思います。しかし併せて、自分たちで起業していく覇気のない若者には切歯するばかりです。

ハケンではない若者達の新会社 茂明

3 ロボットを殖やし全部を馘首する 鶴彬

昭和三年の句ですが、今見ても極めて新鮮で、鶴彬の先見性には敬意を表します。

今日、人手不足を補うために導入されたはずの工業用ロボットが熟練労働者を追い出してしまっています。

一部の大手企業ではそのロボットより安いハケンに置き換えて、大量採用していました。それなのに、円高がちよつと続くと日本から出て工場閉鎖を行っています。

「猿は猿、魚は魚、人は人」と故松下幸之助は若手をさとしたといいます。そのパナソニックが先頭になって工場閉鎖をやるうとしていきます。

ロボットより安い賃金でもハケン馘首 茂明

4 罐詰めにする暴力団を雇ひ入れ 鶴彬

二〇一一年夏の話。

「トラックの運転手募集」と書かれた手配師の札に釣られてバスに乗ったら、着いたのはフクシマの原発構内だったといいます。

大阪(釜が崎?)でのこと。

もちろん労働基準法に違反しています。手配師は当然知っていたはず。こういいう手配師はおよそまっとうな人間ではありません。

まっとうな人に「フクシマ原発の仕事紹介」といっても、誰も行きはしなないでしょう。たとえ高給であったとしても。そういう手配師に頼っているのが原発の実態です。

缶詰めにする手配師まず雇い 茂明

5 資本家の令嬢の美貌に見惚れる 鶴彬

大正十五年の作品です。

この令嬢は振袖姿？それともイブニングドレス？

ダンスパーティーにでも行くところでしょうか。美貌は理屈ぬきにそのとおりと世の人は思

うでしよう。

とくに男は、もちろん私も、そしてきっと女性も。

理屈では「あれは搾取の結果だ」ということになります。

そうはいつでも美しいことは美しい。

二世三世の令嬢たちに見惚れる衆議院

茂明

6 食堂があっても食へぬ失業者

鶴彬

高級料亭から安い店まで、当時の東京にもあまた揃っていたことでしょう。

今はもっと派手で、そこから出る残飯だけで世界の貧しい人たちが数億人の食べ物と同じだといえます。

高級料亭に通いつけるお金持ち、B級グルメで満足している庶民。インスタントラーメン一個の若者。

その下にネットカフェで一晩をすごす人。個人宅のトイレほどの空間にパソコンがあつて、一夜をすごします。

もっと下がひもじいお腹を抱えてガード下や高速道路のパーキングで一夜を明かして、水を飲んでいる人がいます。飽食国ニッポンで。

B級グルメにも縁がないハケンたち

茂明

7 こんなでつかいダイヤ掘ってアフリカの

仲間達

鶴彬

昭和十一年作です。「アフリカの星」三千カラット以上のことでしょう。

ダイヤ鉱山のあるサウスアフリカは当時はイギリスの植民地でした。次官チャーチルはそのダイヤモンドを王室に贈って栄転したともいわれます。

鶴はそんなダイヤをどこで見たのでしょうか。映画の中の国王陛下の戴冠式？

それから七十余年、独立したサウスアフリカは、BRINKSと呼ばれる新興経済国になってきました。勢いは外国に投資できるところまでできています。

ンコシ、シケレリ、アフリカ！（アフリカに神の祝福あれ）

ダイヤ掘りイギリス食べさすアフリカ人

茂明

8 重役の賞与になった深夜業

鶴彬

旧工場法は十一時間労働制を定めていました。それ以降が夜業です。

女工及び少年工の夜業は禁止でした。したがってこれが女工だとすれば、ヤミ、闇残業です。

今は労働基準法があるのですが「名ばかり管理職」といった闇残業はあいもかわらず横

行しています。

重役のボーナスだけ増えた闇残業

茂明

9 小春日に宝達山が痩せてゐる

鶴彬

宝達山の姿が見事なのは高松から大海川を渡った辺りと地元の人に教えて頂きました。私自身は少し山に近い、通称山街道の黒川という里から冬野という里に抜ける道付近が一番好きです。途中にはヤギの牧場もありました。（山街道は石動や津幡から河合谷を通って、旧押水に出ます）

この旧河合谷村は大正十五年から村ぐるみ禁酒をして小学校を建てた歴史があります。鶴彬もきつと知っていたことでしょう。

残念ながら河合谷の小中学校は平成二十年閉校しました。（金沢革新懇会報より）

酒我慢の河合谷に学校消え

茂明

(つづく)

◆投稿歓迎

【次回締め切り4月末日】

- 鶴彬への思い
- 作品鑑賞
- 鶴彬やその仲間たちのエピソード、情報
- 「あの時代」について思うこと
- 「はばたき」1〜7号の感想、批評
- その他、鶴彬に関すること

戦争はいけない！ 命をかけた川柳

盛岡の小学校で鶴彬の授業

昨年十一月、岩手県盛岡市立河北小学校の横山睦美先生から城戸寿子さん（かほく市、鶴彬の姪）あてに、封書が送られてきました。横山先生が六年生の社会科の授業で「戦争」を取り上げた際、元校長の宇部功先生に鶴彬についての授業をしてもらいました。その授業をまとめた学年通信「顔」と、児童たちの感想文、さらに城戸さんが贈った鶴彬川柳入りティッシュ入れへの一人一人の礼状がどっさり封書に入っていました。その後、宇部先生からも児童の感想文が届きました。

鶴彬永眠の地・盛岡で、先生方から子どもたちへ、鶴彬精神が確実に受け継がれていることは感慨深いものがあります。どんな授業が行われたのか、紹介します。

横山睦美先生の書状

（略）先日は、子どもたち一人ひとりに手作りのティッシュ入れをいただきました。ありがとうございます。一つひとつに句があり、心のこもったものを、本当にありがとうございます。

宇部功先生に、鶴彬についての授業をしていただいたのですが、「手と足を…」の句はもちろんのこと、一句一句に込められた思い

にふれ、あの大変な時代の中で命をかけて句をつくったことへの驚きと強さに衝撃を受けました。

授業の様子を同封いたしました学級通信に掲載しましたので、ご覧いただければありがたいです。また、授業の後で、子どもたちが書いた感想文も何枚か同封いたしました。子どもたちの素直な心がそのまま綴られております。

私自身、約十五年ほど前に初めて鶴彬について知ることができてから、ずっと「手と足を…」の句が心に残っておりました。これからも、子どもたちとともに戦争のない平和な世界が続くよう考え続けていきたいとおもいます。（略）

第六学年 学年通信「顔」

手と足を もいだ丸太にしてかへし

鶴彬

大きく黒板に書かれた 川柳が一句。そして「この句を通して、鶴彬さんは、何を伝えたいのか。考えてください」と、宇部先生が語りかけます。

昨日の三、四校時、いつも川柳を教えてくださいださっている宇部功先生に、六年生の教室で授業をしていただきました。

以前、私が松園小で、六年生を担任していたときに、当時副校長先生だった宇部先生に、同じように鶴彬の授業をしていただいたことがあるのですが、その時の授業が強烈に私の心に残っていました。それで、今回一ヶ月だけですが、六年生を担任し、社会で戦争

の歴史を学習している…これはぜひとも宇部先生に鶴彬の授業をしていただきたい、そう思ったのです。少し難しい内容ですが、今の六年生ならきつと受け止められる、そう考えたのです。

宇部先生の問いかけに、六年生のみんなは一生懸命考えます。「かへし」という今は使わない言葉だから昔作られたものだ…そこから昭和十二年に発表された句であることが伝えられます。そして、丸太というのは、人間を表していること、戦地へ行き、手や足が無い状態にして帰されたこと、当時岩手から多くの農民が中国大陸へ渡ったこと、手や足が無い状態で帰国しても、くわを持ち、農地を耕すこともできず、家でじっとしているしかなかったこと、大事な大事な人間の手足をとり、命を奪い、帰してよこす、白い箱に紙切れ一枚、石ころ一つを入れて帰される…このことに対する激しい怒りを表した句であることが、明らかになっていました。

当時、自由にものが言えず、戦争反対等と言ったものならすぐに捕らえられ、牢屋に入られた時代に、このような句を発表した鶴彬…五七五の川柳に命をかけた鶴彬…さらに、鶴彬が、作った句が紹介されていきます。

高梁の実りへ戦車と靴の鉾

屍のゐないニュース映画で勇ましい

出征の門標があつてがらんだの小店

万歳とあげて行った手を大陸へおいて来た

胎内の動きを知るころ骨がつき

一句一句に込められた思いを、みんな真剣な表情で聞いています。

鶴彬は、その後ついに、特高警察に捕らえられ、拷問を受け、病にたおれてしまいました。そして、病院のベッドに手錠でつながられたまま、二十九歳で亡くなってしまうのです。

川柳の世界では知らない人はいない…と言われるほど、有名な鶴彬ですが、昭和十三年に亡くなって以来、いつかどこにお墓があるのか、謎とされてきました。研究者たちは、何年も何年も、彬が立ち寄った先をさがしたそうです。彬の生まれ育った石川県はもとより、千葉、東京、大阪…。

そして、昭和五十年代に入ってから、なんと、ここ盛岡に鶴彬のお墓があることがわかったのです。

この事実にみんなも驚きの声をあげます。鶴彬…本名、喜多一二。彼のお兄さんが盛岡に住んでいたことが縁で、盛岡市光照寺に



宇部先生の鶴彬授業を取り上げた

盛岡市立河北小学校六年の学年通信「顔」

お墓があるのだそうです。その後、松園の県立博物館の近くに、彬の句碑がつくられました。句碑には、ぼうとうの「手と足を…」の句が彫られています。

実は鶴彬は、十五歳位の時には、全てのを暗記するほど、石川啄木のファンだったのだそうです。

「啄木とゆかりの深い地に、お墓がある…縁を感じます」と宇部先生が話されました。また、社会でも学習した、田中正造も、若い頃無実の罪で捕まり、遠野から花巻へ運ばれたことがあることも教えていただきました。その正造の公害問題への運動を知って、啄木が感動し、募金をつのり、正造のもとへ送ったことも…。

様々な結びつきの中で、互いに影響し合っていることがわかります。

授業の最後に、宇部先生がみんなに語りかけました。

「戦争はいけない。良い戦争などというものは絶対にはいけません。みなさんは、正しい情報を見極め、考え、判断する力をつけてください。そして、戦争のない平和な世界を築き上げていってほしいのです」

《授業の後、宇部先生と交流のある、鶴彬の姪ごさんにあたる城戸寿子さんから、手作りのティッシュ入れがプレゼントされました。鶴彬の授業をするというので、ぜひ子どもたちに、と送ってくださったのだそうです。一つ一つに、鶴彬の句が一句ずつつけられている心のこもったプレゼントです。本当にありがたいことです。》

宇部 功著「子どものころ五七五」から

ぼくのゆめ庭にテントをはってみる
 うちの庭石ころばかりでさみしいな
 今だから話せることもあるんだよ
 今だからやらなきゃいけない事がある
 ポイすては未来のために今やめて
 戦争はどこかで今も続いている
 欲望で地球を壊す現代人
 とけてきた雪の洋服岩手山
 今一度自分の失敗振りかえる
 足あと道しるべにもなるんだよ
 宿題をわすれた朝は足おもい
 足ペタリ今日も一日はだしです
 先生の足ははやいなとりかえよう
 きょうりゅうの足が化石に生きている
 木の根もと足がなんだかありそうだ
 先生の足音聞こえしんとなる
 ごろごろと夏の足音かみなりだ
 足二本死ぬまで使う宝物
 根のようにいきいきしたいわたち
 根っこは家族支える父のよう
 花の根は栄養をすうストローだ
 道ばたでしごとく生きる根っこたち
 水を吸い洪水防ぐ頼れる根
 おばあちゃん根まで草取りありがとう
 根がでかいうちの木いつもいばってる
 おねだりはいつも根強く一時間
 宿題が一つもない日平和だなあ
 日本には平和の神がいるのかな
 落ちつくよ和室の部屋はふしぎだな
 平和だなみんなでごはんおいしいな

伊藤 俊
 畠山 仁
 清水 翔平
 野際 晃一
 遠藤 瑞穂
 下田 みかこ
 長内 利恵
 小野寺美世子
 畠山 志帆
 白石 愛
 浦内 健太
 白澤 知優
 田中 智佳
 田中 純
 遠藤真由美
 佐々木俊和
 伊藤 美和
 伊藤 優
 佐藤 朋香
 川端 孝典
 遠藤香菜恵
 村松 愛理
 阿蘇 泉
 浦田 春菜
 山道 美香
 長内 利恵
 森田 洋平
 菅原 諒平
 北野澤 洗
 滝沢 俊

鶴彬の授業に学ぶ

(盛岡市立河北小学校六年生)

●一句一句に命をかけた (高橋 瑞葉)

先日は、鶴彬の授業をきかせていただき、ありがとうございます。

鶴彬の作品は、一句一句に、強い思いがあつて、一句一句に命をかけていたんだろうなと思ひました。戦争は、本当にむごくて、いやなものだ、絶対にだめな事なんだ、という気持ち、すごく伝わってきました。これから、絶対に戦争をするような事がない世の中であつてほしいと思ひます。

また、戦争に反対すると、警察につかまえられるてしまうなんて、すごくむごいと思ひました。

それから、鶴彬さんのお墓が、盛岡にあることを知つて、びっくりしました。とても有名で、一句一句に命をかけた人がここにいるんだと思うと、なんだかすごいと思ひました。いつか行つてみたいです。

●啄木らとのつながりと思う (晴山 浩太)

「手と足を もいだ丸太に してかへし」

この川柳をもとに作者鶴彬(本名 喜多一二)さんはなにを伝えたかつたのかを考えました。鶴彬さんの生がいは、勇氣ある行動でした。

昭和二年、鶴彬さんは上京し、井上剣花坊宅に寄り川柳のすばらしさやイロハなどをおそわつていたと思ひます。でも戦争の中で、戦争に反対する川柳をかいたことに勇氣をかんじました。

また、鶴彬さんは、石川啄木のファンで、

石川啄木は、田中正造にあこがれて、お金を募金して、それを送っているなど、つながりを感じました。田中正造も石川啄木も鶴彬さんを育てたと思ひつていないと思ひます。

でもそうやって、人は成長し、また成長させられて、つながっているんだと思ひました。今日は、人々の「つながり」を教えていただきありがとうございます。

●最後まで戦争反対さけぶ (伊藤史緒里)

わたしは、鶴彬さんの話を聞いてみて、鶴彬さんは、すごい人なんだなと思ひました。理由は、日本が戦争をやつていたときに、周りの人々は、「戦争だ!」と言つていたのに、鶴彬さんだけ「戦争は反対だ!」と言ひ続けたから、鶴彬さんは、すごい良い人だと思ひました。

そして、鶴彬さんは、最後まで言つていたのがすごいことだと思ひました。

なので、宇部先生の話を聞いて、戦争はやつぱりこわいなだなあと思ひました。

たくさんの話が聞けたのでよかったです。たくさんの話が聞けたのでよかったです。

●良い戦争なんて絶対ない (大畑 真陽)

手と足を もいだ丸太に してかえし

私は、この川柳の意味が最初よくわかりませんでした。でも、この川柳は戦争への激しい怒りを表したもので、鶴彬という人が表した句だよと宇部先生がおしえてくれたので、よく分かるようになりました。

そのほかにも、鶴彬、石川啄木の関係をおしえてもらつたりしたのでよかったです。戦争当時のことをくわしく表している鶴彬の詩はドラマと宇部先生が言つていたのは本

当だなあと思ひました。

最後に宇部先生が

「良い戦争なんて絶対ない」

といったのは、本当にそうだ、と思ひました。たくさんのことを話していただき、ありがとうございます。

●胎内の…句が一番印象に (戸賀澤 葉)

私は、最初、鶴彬さんはどんな人なんだろう、と思つていました。でも宇部先生の話を聞くと、戦争の事を川柳にしている人だとわかりました。私が、一番印象に残っている川柳は、「胎内の動きを知るころ骨がつき」です。なぜかというとお腹の中に赤ちゃんがいる、うれしい中、戦争で骨がついてしまつたという、とても悲しい事が起きてしまつたからです。新しい命が出来たのに、一つの命がなくなつてしまつた。本当にかわいそうになりました。

お忙しい中、鶴彬さんの話を教えて下さり、ありがとうございます。鶴彬さんの川柳を見ると、戦争が、どんなにつらかつたかが、分かつたような気がします。大人になるまで、なつてから、戦争が起ころなければいいです。宇部先生、今回は本当にありがとうございます。

●戦争への怒り、悲しみ (堀切 光)

昨日の鶴彬の話を宇部先生から聞いて、最初に出てきた句の「手と足を もいだ丸太にしてかへし」の意味が全く分かりませんでした。でも、宇部先生と授業をしていくうちに、だんだん意味が分かつてきました。特に、手と足を もがれて、戦場から帰つてきて、家に引きこもるしかないというところが

心にのこっています。他にも、「万歳とあげていった手を大陸へおいてきた」や、「胎内の動きを知るころ骨がつき」などの戦争へのいかりや悲しみがこもった詩や句が六つもありました。また、鶴彬が、石川啄木のファンだったことや、その石川啄木も社会で教わった田中正造とも関係があることを知って、昔の人も、たくさんつながりがあったんだなあとすごく勉強になりました。この授業を受けて、戦争でどれだけつらい思いをするか分かったので、これから戦争が起きないようにしていきたいです。

●一つ一つの言葉に重み (八重樫達也)

僕は、鶴彬さんはずい人だなあと思いました。

理由は、日本が戦争中で、周りも「戦争！戦争！」みたいな事を言っているのに、鶴彬さんは、「戦争反対！」と、最後までうったえ続けたからです。

鶴彬さんの作った句は、一つ一つの言葉になにか重みを感じます。あと、やっぱり、戦争が大きらいだったことがよく分かります。僕だったら、周りが「戦争」って言ってる中で、受け流されたと思います。

戦争は、なにもなくなるから、やっぱり、良くないと思いました。

●本当に勇氣ある人 (尹 了吾)

きのう、授業を聞いて日本はずいことをしていたんだなと思いました。それでもつとも心につきささった句は「胎内の動き知るころ骨がつき」という句でした。お父さんは自分の子どもを見れなくて残念だし赤ちゃんはお父さんを見れなくてかわいそうだなと思

ました。

鶴彬は自由にものをいえない時代にこういう戦争は悲しいとか戦争はむごいという句を作ってつかまることをかくごしていたことはいさましいような感じがしました。

昔はつかまるのをおそれて戦争はいやだとか戦争は悲しいなどいわれないなかで鶴彬の行動は勇氣がいます。また、これを読んだ戦争反対の人はかなり心の支えになり、勇氣をもらったと思います。

こういう行動をとった鶴彬は本当に勇氣ある人だと思いました。

●戦争で幸せにはなれない (小原ちさと)

私は鶴彬さんをよく知りませんでした。

「手と足をもいだ丸太にしてかへし」を聞いた時は意味がよく分かりませんでした。でも、意味を聞いてひどいと思いました。

命をかけて句を作ってみんなの気持ちを書くなんてすごいと思つたし、自分もそのように戦わされて、手も足もなくなってしまう人たちの気持ちを知られたと思います。

家に帰って私は、母にこのことを伝えました。私が日本はいろんな人にひどいことをしたんだと言うと母は「でも、ほかの国も同じような事をしたんだ」とおしえてくれました。それで私は外国の戦争のことも調べてみたいと思いました。

宇部先生が最後に言った、いい戦争なんてないということも思いました。戦争をやって幸せになれることは絶対ないと思うので、私はこういう事を次に伝えたいです。

●鶴彬の思いがびしびしと (千葉 喬介)

宇部先生から「手と足を もいだ丸太にし

てかえし」という鶴彬の川柳を最初に聞いた時は、何だこれは？という不思議な気持ちでした。しかし勉強を進めていくうちに、「五・七・五」、たった十七文字の中に鶴彬は自分が戦争について思うことを表現している。すごいと思いました。他の鶴彬が作った川柳一句一句からもどういう気持ち、思いで作ったかがよくの心にびしびし伝わってきました。

宇部先生の最後の言葉

「戦争はいけない。良い戦争など絶対ない。戦争のない平和な世界を築きあげてほしい」も心に残っています。

鶴彬の川柳、宇部先生の話を通して僕は戦争は絶対いけないと改めて思いました。これからもこのことを忘れずに生活していきたいです。

●戦争の川柳すごい勇氣 (村上 真穂)

鶴彬の話聞いて、鶴彬は戦争への思いを川柳にしていたのが、すごいと思いました。戦争中のときは、戦争はだめだとか、言ってしまったらすると、つかまってしま

に、鶴彬は、そういう思いを川柳にするのが、すごいと思いました。私だったら、そういうことは、できないと思いました。

鶴彬は、戦争に対しての川柳を一つかくだけでも、つかまりそうになるけど、そのような川柳をなんつもかいていたので、よくかけたなあと、思いました。私だったら、何個どころか、一つもかけないだろうと思いました。

鶴彬は、戦争に対しての川柳をかいたことよって、つかまってしまいうけど、勇氣があつて、すごいと思いました。

私は、鶴彬はどうして、戦争に対しての川柳をかいたのかと、考えました。

どうも、ありがとうございます。

●心に残る「高梁の…」句(佐々木ヒカル)

わたしは鶴彬という人がわからなかったの
で知る事ができてよかったです。最初、鶴彬
の「手と足を…」の作品を見た時ぜんぜん意
味がわかりませんでした。でも、宇部先生の
話を聞いて戦争でのうったえなど深い作品だ
とわかりました。わたしは、戦争中にこのよ
うな詩を作った鶴彬はすごいと思いました。
なので、本当に戦争はやってはいけない気持
ちが伝わってきました。わたしは、鶴彬の作
品をすべては知らないけれど、しようかいさ
れていた詩の中で「高梁の実りへ戦車と靴の
鉾」が心にのこりました。
わたしは、宇部先生の授業を聞いて鶴彬の
事がわかりました。あと、戦争は本当にやっ
てはいけないということです。

ティッシュ入れのお礼

◇鶴彬さんの授業を受けて感じたことは、鶴
彬さんは勇気のある人だなあとという事です。
理由は、戦争一色のなかで「戦争反対」とい
う事を川柳で伝えていいるからです。

(八重樫達也)

◇「手と足をもいだ丸太にしてかへし」とい
う句は、戦争のことについてえがかれてい
る句で、とても悲しい、苦しいなどの意味があ
るのかな と思いました。つる彬さんは二十
九才で亡くなってしまい、お墓は盛岡の光照
寺にあることが分かりました。そんなに川柳

界の中で有名な人が盛岡にお墓があるのはす
ごいと思いました。(白澤 瑠奈)

◇鶴彬さんの授業を受けていろいろ分かったり、
死ぬ時もうやで、川柳を戦争中に作ったの
はすごい勇気がいるという事が分かりまし
た。鶴彬の勉強をしたいです。(山口 真生)

◇鶴彬さんのじゆぎょうを受けて鶴彬さんは
とてもいい句を作ったと思いました。(北川 智也)

◇鶴彬さんの事がよく分かりました。戦争中
にこんな句を作るなんて勇気があるし、とて
もすごいと思います。(小原ちさと)

◇鶴彬さんの授業をして、鶴彬さんはさいご
まで戦争に反対していたことが分かりまし
た。(石川明日香)

◇宇部先生に鶴彬さんの授業を受けました。
そして、鶴彬の書いた句は、戦争へのいかり
をあらわしていることを知りました。本当に
戦争は多くの人を傷つけ、命をうばうんだな
と思いました。(堀切 光)

◇鶴彬の授業を受けて、川りゆうは「かなり」
歴史があると分かりました。(青木 海星)

◇鶴彬さんの授業を受けて、鶴彬さんはわず
か二十九歳でなくなってしまう、たくさんの
句を書きました。ほとんどが戦争の句で、一
句一句から、その様子が感じられました。学
んだことが多かったのよかったです。

(佐々木祐輝)

(お礼のことは省略しました)

《註・感想文の各見出しは編集者がつけました》

宇部 功著「子どものこころ五七五」から

なかよしが平和な国を作り出す	遠藤 和知
夕ごはんそろって食べる家族の和	齋藤 亜紀
握手した瞬間に和ができちゃうね	間下 萌子
和食店お琴の音色落ちつく	佐藤 洸
けんかしてとなりの人が和らげる	田中 純
平和だねこの町みんなの宝物	遠藤 茜
やっときた新品のかさ使える日	福山菜穂子
台風よ日本ばかり通るなよ	森田 洋平
ケンカして心の中に雨がふる	佐々木美佳
台風で道路が川にはやがわり	遠藤 直弥
さばくでは雨がみんなの神様だ	小野寺美樹
長雨でセミの一生短すぎ	佐々木芳輝
雨がふりクモの巣きれいな首飾り	伊藤 恵理
雨降ってあじさいニコニコ笑っている	佐々木春佳
花かれるめぐみの雨よはやくこい	高橋 隆生
消しゴムで雨をこしこし消したい日	伊藤 優
雨降って草取りしてもまたはえる	伊藤 佳南
きれいだな服をきがえてちようになる	嶋野みゆき
赤とんぼ空をのんびりおさんぽだ	樋口 広樹
虫かごは虫にとつてはろうやだな	城内 大地
こおろぎがはねをならしてのど自まん	小野寺久美子
カメムシは身を守るためくさいんだ	下川原裕斗
もうふぶき虫と人間たえている	小野寺奈津美
お母さんゴキブリ出るとムキになる	遠藤 香菜
かまきりは口が赤くてこわそうだ	菊池 瑠菜

(学校名、学年は省略)

どんな山でも登山ルートはいろいろある。映画「鶴彬 こころの軌跡」が全国で上映されてから、鶴彬という山にいろいろなルートからアタックする人が現れた。鶴彬論を発表した文芸評論家や詩人、ラジオ番組を作ったディレクター、卒論に採り上げた学生……。改めて映画というメディアの影響力と、作品の素晴らしさを見直している。

神奈川県で長年教鞭をとった高校教師が定年後、三つの大学で十数年間、社会科学や教育法などの講師を務め、その講義で昨年、鶴彬に触れたのも映画がきっかけの一つだった。鶴彬を顕彰する会の生誕百年祭や映画製作の情報を知って初めて鶴彬という人物を知り、東京の映画館に出掛けて感動の涙を抑えきれなかったという。

その人は伊勢原市在住の浜本大蔵さん。講義の草稿が送られてきたので紹介する。歴史的、世界的な視野の中で鶴彬の生きざまをとらえてあり、論点多岐にわたってかなり長文のため、勝手ながら鶴彬を軸にした要約にとどめたい。
(文責・角島広治)

反ナチ・レジスタンスと日本の特攻隊員

そして鶴彬の死

何のために命を捧げる？

浜本 大蔵氏講義



浜本さんは「何のためにいのちを捧げる？」というテーマを掲げ、

第二次大戦下の三つの国の若者の死を取り上げている。フランスのレジスタンスの英雄ギ・モケとナチス・ドイ

ツで抵抗運動をしたシヨル兄妹、日本の特攻隊員、そして鶴彬。

「僕が心の底から望むのは、僕の死が何かに役立つということだ。十七歳と半年。僕の人生は短かったけれど、悔いはない」
(ギ・モケの手紙)

「彼女は、斬首されようと絞首されようと、そんなことはまったくどうでもいいと言いつつ切った。……やがて看守が独房の戸をたたき、彼女を連れだしたが彼女は毅然としてまつ毛一本動かさず、すぐあとにつづく心から愛する兄に、最後のあいさつを送った」(ゾフィー・シヨル「白バラ抵抗運動の記録」)

「ぼくはたいへん元気で、おちついています。これから聖体を拝領し、それからしあわせに死んでいきます。……こんなにも豊かな人生をぼくに贈ってくださったことに対して、お礼を申し上げます」(ゾフィーの兄、ハンス・シヨルの両親あて手紙)

「国の為になつて男の意地が立てばそれだよ」と思います。……空母の一隻、敵兵の二、三千小脇にかかえて地獄の門をくぐります」(特攻隊員・若麻績隆の遺書)

「世界の戦争史の中でも、あきらかに異常無謀な作戦であった特別攻撃隊の如きを、再び繰り返してもらいたくない」(若麻績の母・八重子)

死を目前にした若者の最期の言葉を列記し、浜本さんは「国家の存亡を賭けた第二次大戦で、国民がいのちを捧げたのは何のためなのか、命をささげるに値する『戦争の大義』が何であったのか」と問いかけ、「ギ・モケは『自由・平等・友愛』の共和国・フランスをナチスから取り戻すために命をささげた。特攻隊員の若麻績さんはその戦争の大義

に納得できぬまま、国家の命令に従って命をささげた」とし、二つの死の意味には大きな違いがあると指摘する。

フランスがナチス・ドイツに占領されたとき、フランス国民が「国のかたち」として求めたのはフランス革命がかかげた「自由・平等・友愛」の「共和国・フランス」であり、それを圧殺したナチス・ドイツとその傀儡であるヴィシー政権に対する戦いがレジスタンスであった。今日のフランス国民が、「共和国・フランス」を取り戻すために命をささげたギ・モケを英雄として顕彰するのは、その「国のかたち」が国民を統合する蝶番になっているからであろうと、浜本さんは分析する。数年前、サルコジ仏大統領が、共産党員であったギ・モケの手紙を高校で朗読するよう指示を出したため、「己の政治的支配に利用するもの」として国内が大騒ぎになったという。政治的立場が全く逆であっても、国をまとめるのにその手紙は有効であるとサルコジは読んだのであろう。

日本はどうか。国民を統合するものはあるのか。浜本さんは戦没学生の手記「きけわたつみのこえ」からいくつもの手記を拾っている。「あと、死ぬまでに俺の心はどこまで荒んで行くことか。日本民族は果たして……。俺たちの苦しみと死とが、俺たちの父や母や弟妹たち、愛する人たちの幸福のために、たとえわずかでも役立つものならば……。今後の戦争には、もはや正義云々の問題はなくなった民族間の憎悪の爆発あるのみだ。敵対し合う民族は各々その滅亡まで戦を止めることはないであろう。恐ろしき哉、浅ましき哉：人類よ、猿の親類よ」(長谷川信 一九四五年四月、特攻隊員として沖繩で戦死)

死を強制されて、己の死の大義を見出そうにも見出せない苦渋が満ちている。強いて見出そうとすれば「愛する人、我が家族のために」と思わざるを得ない。しかし本当に我が死が家族の幸せになるとはどういう納得できるものではない、と浜本さん。

「私は限りなく祖国を愛する：けれど：愛すべき祖国を私は持たない：深淵をのぞいた魂にとつては：」（中村勇 一九四四年四月、ニューギニアで戦死）

「私は自由主義に憧れていました。日本が真に永久に続くためには自由主義が必要であると思つたからです。これは、馬鹿な事に聞えるかもしれませんが。それは現在、日本が全体主義的な気分に含まれているからです。しかし、真に大きな眼を開き、人間の本性を考ええた時、自由主義こそ合理的なる主義だと思えます」（上原良司 一九四五年五月、特攻隊員として沖縄で戦死）

彼ら戦没学生にとつて、己の愛する祖国と、国から愛すべきとされた祖国との隔たりはあまりにも大きく、「悠久の大義」をもつて祖国に身をささげたギ・モケとは決定的に異なる、と浜本さんは説く。

ギ・モケはフランスで、シオル兄妹はドイツで知らない人はいない。パリの地下鉄にギ・モケ駅があり、ミュンヘンにはシオル兄妹広場があり、それぞれの国で顕彰されているのは自由と人権を圧殺するファシズムが再び台頭することを防ぐ国民的合意があるからだ。振り返って日本にもギ・モケやシオル兄妹はいなかったのか、として浜本さんはここで鶴彬を登場させる。

浜本さんは毎年、三百人もの学生に「鶴彬を知ってるか」と問いかけ、日本文学専攻生

でさえ誰一人知らないのに驚き、熱く語ってきたという。そして主な作品を四十句近く年代順に紹介、日本のファシズムに対して体を張って闘い、獄死したにもかかわらず、戦後日本の国民に顕彰されるどころか、その名さえ知られていないことを嘆く。

さらに鶴彬以外にも無数の「ギ・モケ」「シオル兄妹」がいて、治安維持法で特高に虐殺された者八十人、拷問・虐待によつて獄死した者百十四人、病気による獄死千五百三人、逮捕・送検された者七万五千六百八十一人を数えるが、彼等は「二度殺されたのだ」と浜本さんは言う。ギ・モケやシオル兄妹はそれぞれの国で英雄としてよみがえつたのに対して、日本の犠牲者は歴史の記憶から抹殺されたままということだろうか。

これに対して国に殉じた特攻隊員は靖国の神として祀られ、顕彰されている。「散華」「玉碎」など美しくも空虚なことばで飾られて。

ドイツ、フランスと日本の違いはどこにあるのか。それは国のアイデンティティの中身、つまりは何をもつて国民統合とするのかその中身の違いにあると、浜本さんは次のように述べている。

「シオル兄妹ら白バラの学生たちが配布したピラで、ドイツ人に次のように訴えている。『言論の自由、信仰の自由、犯罪的暴力国家の恣意に対して個々の市民を守ること、これが新しいヨーロッパの基礎である』と。そしてシオル兄妹は豊かな人生に感謝しつつ、毅然とした態度で処刑場に向かう。ギ・モケは『悔いはない』と書き残す。

それに対して、特攻隊で国に命をささげた上原良司は、(前述した遺書とは別の) 出撃前夜の所感では、『空の特攻隊のパイロット

は一器械に過ぎぬと一友人が言った事は確かです。操縦桿を採る器械、人格もなく感情もなく、もちろん理性もなく、ただ敵の航空母艦に向つて吸い付く磁石の中の鉄の分子に過ぎぬのです。理性をもつて考えたなら実に考えられぬ事で、強いて考うれば、(中略) こんな精神状態で征つたなら、もちろん死んでも何にもならないかも知れません」。

フランスもドイツも、近代国家としての『国のアイデンティティ』に『自由と人権』が歴史の底流にあつて、『自由と人権』のより豊かな実現こそが歴史の発展方向であり、その歴史の逆流に抵抗し、歴史の本流に棹さすことが『いのちの意義』である。ギ・モケやシオル兄妹はこれに己の命を捧げたのではなかったか。

これに対して上原良司はそうした世界における歴史の本流に気付きながら、その本流に命をささげるのではなく、その逆渦に我が命がのみ込まれていく苦悩に呻吟しているのだ。それは上原良司のみの悲劇ではなく、鶴彬らを歴史の記憶から抹殺し、靖国の神のみを顕彰する今日の日本の悲劇でもある」と。

「己が信念を貫くか、それとも権力・権威に従うか。あくまでも踏み絵を拒否するのか、それとも心ならずも…いのちの未練を捨てきれずに『転ぶ』か…」。レジスタンスや特攻隊員、そして鶴彬の死を考える中で、生き方の選択と覚悟を若者たちに問う、浜本さんの言は重い。

《註・若麻績隆Ⅱ特攻隊員。沖縄で戦死。母子の手記は〇七年十一月十九日付朝日新聞「水平線地平線」から孫引き》

連載

新興川柳の軌跡

松原 秀河

〔ばんば〕昭和六十年三月号より転載

(十一)

徴兵検査は人柱の人選だ

前回は「堂々たる反逆者―森田一二―」へペンが走ってしまった。こうなると、どうしても《氷原》の田中五呂八から、川柳中興の祖といわれる井上剣花坊へまで溯らなければならぬ。しかし正確に伝えるには残念ながら今のところ手持ちの資料だけでは間に合わない。

読者からは「鶴彬の経歴を知りたい」とか「鶴の作品を毎回掲出して欲しい」或は「軍隊で鶴はどんな反抗をしたのか」などなど仲々問合せや希望が多い。これは連載中の《新興川柳の軌跡》を興味深く読んでいる証左で何よりも有難く思っている。「鶴彬を読んであなたの研究心に打たれました」と《傘》主幹磯野いさむさんからお便りを頂いたが昨日「今日の、《川柳新聞》で秀河さんが《ばんば》で鶴彬を連載しているのを知りました。私も読みたいのでコピーを送って下さい」と《川柳展望》の編集長、天根夢草さんからも申入れがあった。県内の《ばんば》が、どういう経緯で《川柳新聞》関係の人の目に触れたのか知らないが掲載誌である《ばんば》の主脳部からの反響が一つも無かっただけに、こうした著名の人からの声は、ひとしお嬉しかった。

こんな話で次回からの責任は一段と重くなったような気がする。逃げるつもりはないがこの辺で一応区切りをつけ、尚、詳細にわたり調査、整理してから改めてペンを採りたいと考えている。その前に読者が一番知りたい《鶴彬の思想・行動》について、鶴と生前親交を深めてきた人々の思い出、日記、手紙などを中心に紹介して不世出の反戦川柳家、鶴彬を共に偲びたい。

【連隊長 質問事件】

鶴彬―と聞くと直ぐにこの事件を思い出すのだが内容がさっぱりわからない。

年譜にも《昭和五年二十一歳、一月十日金沢第七連隊に入営、三月一日（旧陸軍記念日）連隊長質問事件により重営倉に入れられる》これだけしか記されていない。

しかし色々調べた結果、概略知り得た事実を「季刊鶴彬研究」から転載して私の意見も添えてみた。

鶴彬（本名・喜多一二）は昭和五年一月十日に金沢第七連隊へ入営したが、三月一日、頭書の理由により重営倉（兵舎内にある犯刑者を拘置する施設で重い懲罰者を監禁する。他に軽営倉もある）に入れられた。

事件は前年の昭和四年、鶴彬は徴兵検査を甲種合格で終わったが、最後に徴兵官が彼の生年月日を尋ねると彼は、

「知りません」と平然と答えた。徴兵官は、

「お前は一体、本官を何と思っているのか」「日本で一番偉い天皇陛下の次に偉い、陸軍軍人嘉村達次郎大佐殿であると思つて居ります」

「お前は学校で八年間、級長を続けて来たが社会主義というものを知った為に、自分の生年月日もわからん様になったか。少しは考えて答えろ」

「徴兵官殿は自分の生年月日を御存知ですか。知つておられるようでしたら、日本どこか世界一偉い人ですな」

「喜多！お前はここを何と心得ているのだ。また今日の日を、日本国民として何たる日か、よく考えて見ろ」

「何と言われても自分は生年月日を知らんではありません。但し役場の戸籍にある生年月日は明治四十二年一月一日という事になって居りますが、自分としては自分の生まれた日は知らないのです。徴兵官殿は自分の生年月日を知つておられるのでしたら本当に偉い人ですな」

続けて鶴は、

「徴兵官殿！社会という物は、考えれば考える程わからない事ばかりですね。他人の勝手に作った法律によつて、自分の意に納得できないままに、違反だ、罪人だ、それも結構だが遂には、日本のような帝国主義国家になると最後は、天皇陛下の名で事を解決してしまします。これでは真面目に検査を受けられないではありませんか。本当は偉くもない人を本人の自由意思を無視して天皇だ、大将だと勝手に決める法律が出来、時の政府が、政府に都合のよい治安維持法という結構な法律を

作り、国家、日本帝国、帝国主義戦争の人柱になるための人選が、めでたい日本男子の門出の第一歩でありますか」と、若々しく率直に徴兵制度への民衆の嫌悪の情と、民衆に無縁な政治の在り方に対し舌鋒するどく批判を浴びせたのである。

これは正に気違い沙汰の言動である。何故なら―当時の軍部の強大な力は政党や民衆の意思を征圧しつづつあったからだ。この二年前には治安維持法が改悪され三月十五日に日本共産党員と支持者が全国で一六〇〇名以上も検挙(三・十五事件)。十月六日には渡辺政之輔共産党書記長が台湾基隆(キールン)で警官に虐殺され、陸軍憲兵隊には思想係を設置した年である。

また鶴彬が連隊長質問事件を起こす前年の昭和四年三月五日には労農党代議士、山本宣治が宿泊先の東京神田の下宿、栄光館で右翼暴漢に刺殺され四月十六日には、市川正一ら共産党活動家が多数検挙されている(四・一六事件)。この年は都市の労働争議頻発、その数は二、四六五件で史上空前の激増ぶりであったという。世情騒然、軍部や警察当局の神経はピリピリしていた時である。馬鹿か狂人、あるいは死を決したものでなければ口に出せない怖ろしい言葉であった。

この発言は日清、日露、第一次世界大戦で台湾、朝鮮、南樺太を領土化し、アジア大陸侵略の野望に自信を持った軍部専制下であれば、正に蠅螂の斧の感、また徳川幕政下では切り捨てご免必至のものと見えようが鶴彬は

既に、これ乗り越える十分な理論上の裏付けを持つていた、と見るべきであろう。

いわゆる(連隊長質問事件)や、その後の(金沢第七連隊赤化事件)は、その確信の下に真の民主的社会的の実現を期した、日本帝国主義への挑戦といつてよい。

鶴はまた川柳を「武器の芸術」とみて、人民による人民のための政治具現の前提として数多くの反軍、反戦川柳を発表していたのである。

銃のない、大砲のない、ミサイルのない、核兵器のない、そして戦争や搾取のない平和な世界を望んでいた鶴彬の必死の叫び、死を賭した詩―それが反戦川柳となって炎を吹いたのである。

(十二)

〔ばんば〕昭和六十年三月号より転載

秀才、田中五呂八

―川端康成の感動―

喜多市郎から「堂々たる反逆者」と称賛された森田一二、そして反逆された田中五呂八とはどんな男なのだろうか。この二人は新興川柳運動の双壁として緊密に提携、北海道と金沢から相呼応して既成柳壇を批判攻撃していた。当然、既成柳壇も黙ってはいない。

(きやり)の塚越迷亭は「革新川柳、それは息づまるような悩ましさだ、少し笑ったらどうかと思う。笑って損をするのは箔屋(金

粉などを箔押しする商売)ばかりと古人が喝破しているではないか」と、こんな陳腐な揶揄、漫罵で反撃してきた。

ところが、この新興川柳の雄、森田一二(柳誌、新生の主筆)が思想の変化から田中五呂八の川柳観(芸術至上主義・生命主義)に疑問を抱きはじめ「吾が同志への挑戦」という思想的決別状を突きつけて五年間の堅い同志的結合の絆を断ち切ってしまった。

田中五呂八も森田一二も、川柳界の異色な存在であった。五呂八は北大を深酒と女性問題が原因で中退したが直ぐに、明治公債社の支店長(小樽)に招聘されたのだから余程の才能があったのだろう。最も、この田中家は秀才の血統で五呂八の妹千代の息子(五呂八の甥)は、鉄の研究では世界的学者で、松永賞及び日本化学会賞、二つを受賞した現、国大教授、馬場宏明理学博士その人である。

剣花坊から「論は五呂八・句は半文銭」と言われただけあって彼の評論は各界でも高く評価され、東大教授の久松潜一博士(国文学者・日本文学評論史の著者)も「近代川柳を日本文学史に採り上げなかったことは手落ちのように存じます。ただしどれだけの位置を与えるかは人によって見解が異なっています。田中五呂八氏のもの、なかなかすぐれているように存じます。今後これを文学史に、どのように位置づけるか、私どもも研究して見たいと思っています」と語った。

五呂八は主宰誌(水原)へ、田中五呂八、森田一二、鶴彬、古屋夢村(影像主宰)川上日車(小康主宰)高木夢二郎(川柳人編集長)木村半文銭、渡辺尺蠖など多彩な柳人に

より筆陣を張る一方、地元の小樽では(蟹工船)の小林多喜二と白熱化した論争の上、遂には掴み合いをするほど多感な男でもあった。また文壇にも(氷原)を送り新興川柳を広めようと努力していた。

「伊豆の踊子」を発表し一躍有名になった川端康成から「氷原一四号ありがたく拝読しました。小生は川柳を殆ど知りませんでした。氷原の句を拝見して非常に感心しました。今後とも御誌をつづけて御恵送下されば幸甚に存じます。田中五呂八様―川端康成」という手紙がくるようになった。この一四号には五呂八の画期的論文「新興川柳への序曲―あすの作家に与う」が発表されていた。では川端康成を感動させた作品を抄出してみたい。

田中五呂八作品

神経を陽にさらされた木の嘆き
月に寝る橋の長さを振りかへり
闇を切る星の深さを闇が吸い
土になるだけの理屈の中に住み
日に夜を重ねつくした波がしら

X X X

ここで特筆したいのは当時の柳誌は殆どが題吟だったのを氷原は課題吟を全廃し雑詠だけにしてしまった。詩や小説の世界に課題はない。自由な発想で書く、というのが理由らしい。そしてもう一つは入選句の羅列に過ぎない従来の柳誌のありかたを否定、氷原の半分近いスペースを活発な柳論で埋めつくし他誌を驚かせたことである。

(つづく)

鶴彬仕訳帳

【天と地と】

- 〈宇宙〉
- * 避雷針のねらう大宇宙の一点 (十七歳)
- * 牛の背の老子にささやく天の川 (十八歳)
- 〈太陽〉
- * 花紅、柳緑と太陽の認識 (十七歳)
- * トタン屋根さんらんとして陽の乱舞 (十七歳)
- * 七色を捨てて太陽白を秘む (十七歳)
- * 夜を追いて新しき陽の朝の舞い (十七歳)
- * 太陽の注射! 街、朝の蘇生 (十七歳)
- * 太陽の真下に蟻の唯物論 (十七歳)
- * 海の蒼さは太陽の認識不足だ (十七歳)
- * 地上が太陽の思想にかぶれた、夏 (十七歳)
- * らんらんらんと太陽のどしゃぶり (十七歳)
- * 陽は放浪の旅においぼれて行く (十七歳)
- * 陽を飽き雨の享楽を恋う緑 (十七歳)
- * 陽の描く影のモデルになっていた (十七歳)
- * 陽は己のが錯覚の夜を追い続け (十七歳)
- * 曇天の上になんらんたる陽の舞踏 (十七歳)
- * ひねもすやわれをひたすら陽の凝視 (十七歳)
- * さんらんの陽の奏曲に芽がのびる (十八歳)
- * 陽を孕むクレオンとなり紙にふれ (十八歳)
- 〈月〉
- * 枯枝に昼の月が死んでいる風景 (十七歳)
- * せせらぎの底の真底に月白き (十七歳)
- * 瞳を閉じて月の歩める音を聞く (十七歳)
- * 月光の矢先をあぶる身の痛さ (十七歳)
- * こうこつと月になり切る露一つ (十八歳)
- * 恋風の身にしむ頃の月冴えて (十八歳)

鶴彬仕訳帳

【天と地と】

- 〈星〉
- * 白墨に描ける如く星流る (十七歳)
- * 試みに数うる中をながれ星 (十七歳)
- * 流星のあとを拭える時の手よ (十七歳)
- * 大脳や、真上の星の威圧かな (十七歳)
- * こころみに数うる中を星流る (十七歳)
- 〈空〉
- * 崖見下ろす王の頭上を白き雲 (十七歳)
- * 白雲を千切つて風のその行方 (十七歳)
- * 蒼空と草の蒼さに染むこころ (十七歳)
- * 海の青、空の蒼さと相映じ (十七歳)
- * 澄む空に雲一びらの感情が (十八歳)
- 〈地〉
- * 半球の闇を地球は持ち続け (十七歳)
- * 老いぼれた地球の皺に人の巢 (十七歳)
- * 地球儀にうず高かりし塵を吹く (十八歳)
- * 旅人へ吹雪に消えた里程標 (十七歳)
- * 雪片の土に吸わるる音をきく (十七歳)
- * 泥濘はあなたの涙血と汗と (十七歳)
- * 一滴の涙と一粒の白砂と (十七歳)
- * 春を吸う白砂の歓喜に腹這て (十七歳)
- * 岬晴れて春の渚のひろびろと (十七歳)
- * 草に寝る、草の青さに染む心 (十七歳)
- * 高屋に上れば緑むくむくと (十七歳)
- * あと蚯蚓潜れど知らぬ地の深み (十七歳)
- * こけむせる巖の無念無想かな (十八歳)
- * 箭の苦悶むざんや固き岩 (十八歳)

鶴彬文献一覧

＜高松図書館所蔵＞①

★川柳機関紙「東」

I 1971～1972年 ①～⑩号

II 1972～1975年 ⑪～24号

(ガリ版 全21冊、2冊に合本=12、16、22号欠落)

★反戦川柳人「鶴彬の記録」 (川柳東別冊)

一叩人 編

第一巻 1973年7月15日発行 294頁 (扉に「1974・2・13 謹呈 石堂清倫先生 一叩人」)

第二巻 1974年5月15日発行 303頁 (扉に「謹呈 小澤正元様 一叩人」)

第三巻 1975年7月15日発行 338頁

(ガリ版 限定100部 非売品)

☆懸民の友 (合冊)

1958年6月～9月発行

(No.311、312、313、314、315、317、321号)

(欠落ページ多数)

(裏表紙に県民の友社 原由友のあとがき 1965・5)

(寄贈：杉本晴介 平成12・8・17)

☆「手と足をもいだ丸太にしてかへし 鶴彬の生涯」

グループ演劇工房 (演劇シナリオ)

発行年月日 不明

☆北国文華 復刊2号 (1999冬)

平成11年1月10日発行 北国新聞社

「忘れ得ぬ人 鶴彬 二十九年の遍歴」 澤地久枝 16頁

☆世界 1972年8月号

「反戦川柳作家——鶴彬の肖像」 前田慶穂 (金沢大教授・政治学)

深井一郎 (金沢大助教授・国語学) 19頁

(寄贈：杉本晴介 平成12・8・17)

☆新日本文学 2001年4月号 (No.622) 新日本文学会発行

「川柳文芸の批判性 川柳史の流れから」 岡田一杜 7頁

「川柳は戦争をどう詠んだか」 井之川 巨 6頁

「二十一世紀川柳の革命と革命の川柳と」 乱 鬼龍 5頁

(寄贈：城戸寿子 平成13・4・24)



★持ち出し禁止 ☆貸し出し可

■発行 鶴彬を顕彰する会

■事務局 〒929・1215 石川県かほく市高松 キ5 (小山 広助 気付)

■TEL・FAX 076-281-1201 ■E-mail: turuakira@yahoo.co.jp

■ホームページ <http://tsuruakira.jp/>

鶴彬生誕100周年記念作品
ドキュメンタリードラマ

つる
鶴彬
あきら

このころの軌跡

池上リョマ 櫻山文枝 高橋長英 安藤一夫 角谷栄次 河野しずか 伊寄充則 和田光司

神山征二郎監督作品

ナレーター 日色ともゑ

平和のために生きぬいた詩人の魂

製作:平野寛 神山征二郎 脚本:加藤伸代 神山征二郎 撮影:伊藤嘉宏
音楽:和田薫 録音:永塚康弘 編集:蛭田智子 監督補:神山兼三
撮影補:四方康彦 助監督:岡本真理子 製作総務:加藤伸代
製作:映画「鶴彬-このころの軌跡」製作委員会 製作プロダクション:神山プロダクション

DVD好評発売中

「鶴彬 このころの軌跡」DVD申し込み先

- ◆ 発売・販売先 **鶴彬を顕彰する会**
〒929-1215 石川県かほく市高松キ5 小山 広助方
Tel/Fax 076-281-1201
- ◆ 郵便振替口座 **00740-5-75480**
- ◆ 加入者名 **鶴彬を顕彰する会**
- ◆ 販売価格 **1本2,000円(税、送料込み)**
(振り込み手数料は、申し込み人負担でお願いいたします)